

弟子の確認(ルカ 12:22-34)

人々の声を聞きますと、生きるのは大変だ、きついよという声がよく聞こえてきます。なぜかと言いますと、多くの人が生きることを目的にしているからです。生きることが目的なので、生きることそれ自体がテーマであり、だからきついな、大変だと嘆いたりしています。そして、生きることが目的になっていると、結局は衣食住を軸にするしかありません。そして、その衣食住をどれほど豊かにして余裕あるものにするかにこだわるようになります。衣食住がすべてなので、それが軸です。それを豊かに余裕あるものにするかにこだわるしかありません。となると、そうするための材料として、お金や名誉、成功、勉強、仕事などをメインテーマにして頑張るしかありません。これが世の中の人々が普通に生きることです。それに対して、イエス様は、弟子たちに、そういった世の中の人々がメインテーマにして頑張っていることは、クリスチャンには、特に弟子たちには加えて与えられられるもの、つまりサブになるものなので、あなたがたは違うメインテーマがあることを確認しなさいとおっしゃっています。今日お読みしました聖書の箇所は、そのような内容です。弟子たちに向かって、あなたがたは、異邦人と神様を知らない世の中の人々とは、生きるテーマが違うんだよ。生きることが目的ではなくて、それが目的になれば、結局は何を食べるか飲むかにこだわり、そのためのさまざまな内容がテーマになるしかないのではないか。いつまでそのままその状態がずっと続くのか。あなたがたは違うよ。それらのすべては加えて与えられるものなので、これからはメインテーマを変えないといけないう。あなたがたは生きるテーマが違うんだよ。ぜひそれを確認しなさいとおっしゃっています。今日礼拝を捧げているレムナント教会の皆さんひとりひとは、このイエス様のお話が心にしっかりと刺さって、自分自身を省みる時となり、それで自分の人生のテーマが何なのかを確認して、もし異邦人と同じテーマを持って、同じこだわりを持って、そのために頑張っているのであれば悔い改めて、弟子のテーマは一体何なのか、なぜそれがテーマになるしかないのかということを確認する幸いなときになることを祈りたいと思います。

1. 信者は尊い存在に変えられていることを確認しなければ。

まず、弟子は何を確認しなければいけないのかと言いますと、信者は自分自身がとてもとても貴重な存在、尊い存在だ、そのように変えられているんだということを確認しなければなりません。

皆さんが自分で自分を考えているよりはるかに尊い存在です。私たちはついこの出身なのか、肌色がどうなのか、どれほど才能があり、また財産がどれほどあるのか、能力がどの程度なのか等々によって自分の存在を評価しようとする、そういう世の流れに長い間染まっていました。神様の恵みによりクリスチャンになったにもかかわらず、そこがなかなか変わらないし、そこからなかなか抜けることがないわけです。だから、クリスチャンなのに礼拝を捧げているにもかかわらず、自分がどれほど貴重な尊い存在なのかについてはなかなか気づかないまま、礼拝の真っ最中でも心配ばかりしているのです。心配せざるを得ないことがあるからではありません。それが心配しなくてもいいほど、それが全く心配にならないほどの貴重な尊い存在だということを知らないか、忘れているからなのです。だから、弟子がまず第一に確認しないといけないことは、自分の存在が計算できないほど尊いものに作り変えられているということをぜひ確認してください。

1) 三位一体の神様が永遠に私の中に私とともに(残された者)

皆さんが今までどういう人生を歩いて、また今現在どういう状況に置かれているのかわかりませんが、キリスト・イエスを信じて受け入れたものであれば、一人も例外なく、三位一体の神様が永遠に自分の中に自分とともにおられる存在になりました。人間的な条件などとは関係ありません。親が私のことを愛情を注いで構ってくれるのか、あるいは私を見捨てたのか、そういうことは自分の存在の評価と全く関係ありません。一つだけ、神様が私たちのためにこの世に送られた

御子イエス・キリスト、しかも私のために十字架で死なれた、それで復活なさった御座の主であるキリスト・イエスを救い主として信じて受け入れたのかどうかだけが条件です。ならば、たとえば目が3つあって、口が5つくっついている者であっても尊い存在です。人間の評価は外見によるものではありません。何かの条件によるものではありません。親のどうのこうのによって左右されるものではありません。その人がどれほど能力のある人なのかによって評価されるものではありません。ぜひこの部分を確認しないといけません。これが確認できていないと、教会に通っていないながらも何を食べるか、何を飲むかにこだわることになります。そこから自由にならないのです。私たちは、イエス・キリストを信じたその瞬間、目に見えないけれども世界を作られて、今現在も世界を支配して、宇宙の主である三位一体の神様が内側に入るとともにおられ、しかも永遠にともににおられる者になりました。そういう人を指して残された者と言います。だから、当たり前前に世の中にさまざまな困難があり、いろんな限界があるかもしれませんが、私たちにとって、弟子にとっては何一つ問題になりません。

①三位一体の力

三位一体の神様の力がその人に現れる存在ですから。

②御座の力

その三位一体の神様がいらっしゃる御座の祝福と力がその人のものになるわけですから。それほど皆さんは尊い存在です。通帳に残高が少ないから私はダメな人間だと思ってはいけません。御座の祝福が、御座の栄光が私に注がれる、そういう存在です。信じないといけません。なぜでしょう。キリストがそういうものに作り変えるために十字架で血を流されました。だから、皆さんの意志と、皆さんの能力と努力と関係なく、そのように作り変えられているわけです。

③時代を生かす力

信者には、弟子たちには、三位一体の神様がともにおられるわけなので、この時代を過去、現在、未来を変える力が働くようになります。過去、現在、未来を変える力が働くというのは、過去、現在、未来、何一つ問題にならないということではないのでしょうか。それほど尊い存在です。御座の祝福があるので、肉的なもの、この地上のもの囚われる理由などありません。時代を変えるいのちの力が与えられるので、律法や宗教などから自由になります。

④暗闇に勝てる力

それだけではありません。三位一体の神様が一緒にいらっしゃるから、今もこの世界を支配して、人々を地獄に連れていっている悪魔、サタン、悪霊、暗闇の力に打ち勝つ権威が与えられているわけです。皆さんの勉強の成績と全く関係ありません。

⑤世界福音化の力

だから、信者、弟子たちには、世界福音化が可能になる神からの力が与えられます。単なる力ではありません。世界福音化が可能な電力、知力、体力、経済力、人材力などの力が与えられます。なので、不信仰になる理由もないし、言い訳などが全くいらない、不平不満などが恥ずかしいことになる、そういう存在に作り変えられているわけです。誰がでしょうか。今、礼拝を捧げているここにいる皆さん。礼拝を捧げているながらも、無理やり礼拝に連れられてきてるかもしれません。心の中に誰かに対しての不満がいっぱい溜まっているあなた、がそういう存在です。ただ気づいていないだけです。なぜ気づいていないのでしょうか。見事に偽りの父、悪魔が騙してるわけです。

⑥CVDIP の力

それで、皆さんの人生が神様の答えが用意されている人生であることをあらかじめ見る力が与えられます。ただ残りの人生をなんとなく歩くものではなくて、神様が CVDIP の契約の答えをちゃんと備えられて導いていらっしゃるの、ほかの人と比較したり、何かしら人間的な動機などを持たなくてもいい、絶対ミッションのある存在です。

⑦3 庭の力

なので、皆さんは尊い存在です。そのために皆さんの心の内側に、異邦人の庭、癒しの庭、子ども庭が作られて、皆さんはただの体のように思うでしょうけれども、光の神殿となっているし、光の神殿として回復されて、異邦人に光を照らして、病んでいる者に光を照らして、子どもたちに光を照らすことで、この世の災いを防ぐ力が皆さんにはあるわけです。異邦人を生かして、病んでいる者を生かして、未来を生かす、そのような祝福が皆さんには既に働いているのです。ただ、それを回復することだけです。イエス・キリストを信じるのがどれほどすごいことなのか、それに気づかないと神様も寂しいのです。神様はご自分のすべてを私に与えられたのに、私たちは未だにそのことに気づかないまま、昔の自分のままで何を食べるか、何を飲むか、あの野郎この野郎と言いながら。今までの自分の感情に振り回されて、世のルールなどにそのまま流されて、それに乗かって動かされているだけなのです。なぜでしょうか。そんなことは必要のない尊い神の子どもだということが分かっていないから。何かしらちょっとした問題があれば、すぐにつまずいて、すぐにさばいてしまったり、すぐに正しいか正しくないかいうことについていつい走ってしまうのです。なぜでしょうか。自分では良かれと思って、あるいはよくやっているつもりでそうしているのかもしれませんが、自分がそんなこととは縁が切れている、新しく作り変えられた神の子どもである尊い者だということに気づいていないからです。だから、弟子はまず、そういう世の中の暗闇の流れに翻弄されないためには、自分がそこから抜け出した者だと確認をしないとはいけません。尊い存在です。これに本当にみことばの光が照らされて、皆さんの考えの中に今まで根を下ろしていたものが砕かれたときに癒されるようになるわけです。まずここが癒されないと、体の病気が癒されることは意味がありません。まずここが癒されないと。自分は本当に尊い存在なんだ。そしてこれは日にちが変わっても、状況、環境が変わっても、また私に対する人の視線がどう変わろうが、永遠に変わらないものなので、朝起きたらすぐにこの祝福を味わわないといけません。寝る前もこのことを確認して寝ないといけません。皆さんの精神がきれいにならないといけません。なぜ親に対して、なぜ子どもに対して、なぜ旦那さんに対して、奥さんに対して、周りの人々に対して、変な暗い思いを抱えているのでしょうか。騙されることなのです。だから、そういうことを通してイエス・キリストを信じている自分がどういう存在なのかを確認する機会にしないとはいけません。

2) 三位一体の神様が私の人生を責任を持って導かれ(巡礼者)

これが間違いなければ、これから私たちが歩く人生の道のりは、自分が行きたいところ、歩きたい道ではなくて、神様が用意して備えられる最高の契約の旅程を歩むようになります。それほど尊い存在です。皆さんがやりたいこと、行きたいところではありません。それはいつも滅びにつながるものなのです。

①契約の旅程

なのに三位一体の神様がいつまでもともにおられる幸いな存在なので、それにとどまらないで、三位一体の神様がこれからの私たちの人生の道のりを、どこにどういうふうに行くべきなのか全部用意して、最高の契約の旅程を歩ませるわけです。それを信じるのです。

②伝道者の旅程

その契約の旅程はどのような道なのかというと、お金をたくさん稼ぐかどうか、それは二の次の話です。もう明らかにされている信仰の土台の上で結論が明確に出ている伝道者の道を歩むようになります。その伝道者の道は、人生最高に価値ある道になります。だから、最高に価値ある人生の道のり、旅程を歩むようになっている者なのです。これから何をどうすればいいのか、私はどこに向かっているのか、そういう心配などはいりません。三位一体の神様が伝道者の最高に価値ある人生の旅程を用意して導いていらっしゃるのです。それが私たちのことです。

③答えの奥義の旅程

それで、私たちが行く道には神様が絶対計画を持っていらっしゃるのです。それに向かってすべてが答えになる、その奥義、秘密の旅程を歩むようになっているのです。私たちが見た時には、私

たちの人間的なレベルでは、良い悪い、ひどい、なんで？、いろいろあるかもしれませんが、そのすべてが答えになります。なぜなら神の絶対計画に向かって進む道ですから。奴隷として売られたことも答えなのです。濡れ衣を着せられたことも答えなのです。死の影の谷を歩く、その辛い経験も答えであり、祝福でした。皆さんの道がそのような道です。そこらじゅうの人と一緒にしてはいけません。それほど皆さんは尊い存在です。

④勝利の確信の旅程

なので、それが間違いなければ、どのような現実にあっても負けることなく、十分に勝利できる確信をもって歩むようになります。確信に溢れる旅程。誰も変えることができない、神が与えられたもの、救い、祈り、勝利、それに確信をもって歩くわけです。そういう道のりなのです。

⑤現場の流れを変える旅程

それから当然、これが間違いなければ、どのような現場にいても、その現場の状況に騙されないで、そこに縛られることなく、溺れることもなく、その現場の流れを見て、現場を変える征服者としての道のりが用意されているわけです。なぜなら三位一体の神様が一緒にいらっしゃるわけですから。それが私がこれから行く道なのです。何が問題なのでしょう。

⑥伝道者の生活の旅程

最終的な目的は、そこで神様が絶対計画によって絶対弟子との出会いが許されます。それがこれからの私たちの旅程なのです。そのときに生涯の答えをもって味わいつつ、生涯の答えをその人に伝える、つまり弟子として行く道、一人の弟子を絶対やぐらとして立てるその旅程を歩むようになります。

⑦キャンプの旅程

そのために神様は、個人的に礼拝を捧げようが、集まって礼拝を捧げるときでも、必ずそのような道のりを歩んでもらうために、御座のキャンプが行われる礼拝の方に導かれます。そして、そのような礼拝を味わった者は、その人の普通の生活のすべてがキャンプになります。礼拝でキャンプの恵みに預かった者は、その人が行くところどころにおいて光が照らされることになるので、生きること自体がキャンプになる、つまり、礼拝の旅程、キャンプの旅程を歩むようになります。それ以上、素敵な人生、幸いな人生はどこにあるのでしょうか。私たちにはそのような旅程が用意されています。目の前に何かがあってふらふら、ふらふらする必要がない存在です。ここまで考えていても、なるほど、心配などいらないものなんだね。なのになぜ心配するのか。結局はこのことを信じていないし、このことが刻印されていないからです。だから毎日このことに触れないといけません。この祝福を。自分がどれほど貴重な存在なのか。お金がいっぱいあるから貴重だと思っている限り、こういうところには目を通さないのです。それは人が貴重なのかどうかの基準ではありません。才能あるかどうか、親が優しいのか、そうではないのか、それは自分が尊い存在なのかどうかを決める材料にはなりません。今日申し上げましたキリストによって、三位一体の神様との関わりによって評価されるわけです。ぜひ改めるように。まず自分自身を改めないといけません。

3) 三位一体の神様の聖なる目標に向かって答えられ(征服者)

それで、そのような旅程を通してただ歩くわけではありません。目標があります。自分の願い、自分の目標ではなくて、神様の聖なる目標に向かって答えられつつ人生を歩くものなのです。それほど尊い存在です。神が用意されている道を歩むということが巡礼者です。そして、神様の目標に向かって答えられる人生が征服者の道であり、再創造の道なのです。私たちは再創造の答えの道を歩くようになっている尊い者なのです。

①カルバリ山の道しるべ

だから、一人の弟子にあったときには、その一人にカルバリ山の道しるべ、すべてを完了したと

いう宣言がその人のものになるように。

②オリーブ山道しるべ

そのことによって、オリーブ山の道しるべ、何を食べるか飲むかではなくて、神の国をテーマにして、ミッションが明確になるように。

③マルコのタラッパンの道しるべ

そのミッションを握ったときに、その人の現場、マルコのタラッパンにおいて、具体的に神の国のことが現れる、いのちの運動が行われる、その体験の道しるべが立つように、そのことによって、一人のたましいが絶対やぐらとしてしっかり立つように仕えるのが目標なのです。仕えることが目標なのです。世界でトップの企業になろうという目標とは比べ物にならない、聖なる目標なのです。この目標に向かって私たちは人生を歩いていくものなのです。そうすると、その人が絶対やぐらとして立って、その人の内側に光の道しるべが残るようになります。ほかの人が見てわかるようになります。私もああいう風にならなきゃという道しるべになるわけです。そして、その人はそこで体験して終わるのではなくて、その体験によって世界福音化に向かって進むようになるわけです。そうなるように、それが目標なのです。

④教会の道しるべ

そして、個人に終わらないで、そのような祝福がアンティオケ教会のように一つの教会に絶対やぐらが立つことによって宣教の門が開かれるのです。そのようになるように、それを目標にして教会に仕えることになります。となると、その教会に光の道しるべが残るようになり、ほかのみなさんがその教会を見てついていくようになるわけです。そして、その教会はそのような光の道しるべを作って残しといて、世界福音化に向かって挑戦していくようになります。これが目標なのです。

⑤癒しの宣教現場の道しるべ

そして、宣教の現場に行きますと、絶対癒しが必要な現場が待っているわけです。その癒しが必要な現場に神様は光の道しるべを立てるために絶対弟子を用意していらっしゃいます。その絶対弟子を見つけて、その弟子を絶対やぐらとして立ててとなると、その癒しの現場に光の道しるべが立つようになります。みなが見ることができるようになる。それを目標にして答えられる、そういう人生なのです。

⑥転換点による道しるべ

そして、その癒しの現場に光の道しるべが立ったそのときに、それをもって世界福音化に向かってまた挑戦していくようになります。そのうち、人生の転換点のような出来事にぶつかるようになります。

⑦ローマの道しるべ

その人生の転換点のようなものを通して、ローマのために用意されているネフィリムの地域に導かれて、そのネフィリムの地域のために用意されている絶対弟子を見つけて、絶対やぐらを立てることで、そのネフィリムの地域、現場に光の道しるべが立つように、それが目標なのです。そして、それを答えと言います。となると、みなが見てわかります。次世代も見て、世界福音化の道しるべに従っていくようになります。そして、その現場に光の道しるべを立てて、それから目標です。237 国、5000 種族が集まっているローマです。そこに絶対弟子を見つけて、絶対やぐらを立てて、そのローマに光の道しるべを立てることが目標であり、その目標に向かって答えられるわけです。そして、そこで終わりではありません。ローマに道しるべが立ったときに、それを中心にして 5000 未伝道種族に向かってずっと歩き続けるようになるわけです。この聖なる神様の目標を答えとして歩くものに作り変えられているわけです。なんと尊い存在でしょうか。ステイーブ・ジョブズが、ビル・ゲイツが、スティーヴン・スピルバーグができることなんでしょうか。トランプが、総理さんができることなんでしょうか。皆さん以外には不可能なのです。教会

のほかにはできないことなのです。そのために偶像によってネフィリムの国家となっている、しかも、そうでないかのように薄めているこの国において、今も復活のキリストが聖書にある通りの伝道運動をなしていらっしゃることを証明する教会として、そして、それをもって宣教師の墓と言われている国が 5000 種族に向かって宣教をする国に変わることを手伝う教会として私たちは召されています。それほど皆さんは貴重な存在です。信者、自分が自分自身のことを正しく聖書的に、福音的にキリストにあって見直していないので、次になかなか進めないのです。そのギャップの間に、目に見えない暗闇の力、特に誘い込む霊の力が働いているということを感じないといけません。キリストの栄光にかかわる光が輝かないように思いをくらませているわけです。そこには親のせい、だかのせい、何かのせい、いろんな口実を取り上げているでしょうけれども、その誘い込む霊がそれを材料として利用しているということに気づかなければなりません。皆さんは自分で自分のことをダメとも言えない存在に作り変えられているのです。これほど私たちが祝福された者なので、イエス様は今日お読みしました聖書の中でこのようにおっしゃっているわけです。あなたがたは、鳥よりも、野の草や花よりも、そういう鳥と草花のためにキリストが死んだことはないのです、あなたがたは比べ物にならないほど尊い存在ではないのか。なぜ何を食べるか、飲むか、普通の人と同じテーマで悩んでいるのかとおっしゃっているわけです。今、1 番で申し上げましたこのことに気づきなさいとおっしゃっているわけです。何を悩んで、何を今いちばんのテーマにして関心を持っていいらっしゃるのでしょうか。そこを直さないといけません。

2. 信者の人生テーマが変わったことを確認しなければ。

当然ながら 2 番です。だから、信者の人生のテーマは変わりました。それを確認しないといけません。

1) 生きることが目的ではなく(衣食住)

つまり、普通の人々は生きることが目的でしょう。でも、信者はその目的はもう既に砕かれました。衣食住などがこだわりではありません。これは衣食住を無視するという仏教の変な話ではありません。必要なものなのです。しかし、それが信者のいちばんのこだわりになってはいけません。私たち信者、弟子の生きる目的は変わりました。成功でも名誉でもありません。

2) 神様の栄光、願いが目的に-キリストがこの地に来られた理由

神の栄光を表すことが目的であり、その神の栄光こそ、神の願いが成就することなのです。信者の私たちには、自分の願いなどありません。神の願いこそ私の願いであり、それが目的なのです。神の願いはなんでしょう。神の栄光が現れることはどういうことなのでしょう。それはキリストがこの世に来られた理由、それが神の願いなのです。そして、キリストがそれを全部全うされた十字架を通して神様は栄光をお受け止めになったと聖書は宣言しています。神は、実にひとり子をお与えになったほどに世を愛された。それは御子を信じる者がひとりとして滅びることなく永遠のいのちを持つためである。これが神の願いなのです。まことに、まことに、あなたがたに告げます。わたしのことばを聞いて、わたしを遣わした方を信じる者は、さばきに会うことなく、永遠のいのちを持ち、死からいのちに移っているのです。これが神の願いなのです。キリストが世に来られた目的は、私たちの罪を贖うために、私たちを騙して、人生を捕えて滅ぼし、地獄に引っ張っていた悪魔の頭を踏み砕くために来られました。それで神様とまた出会い、神のいのちを与えようとして来られました。

3) 今もその願いを-世の国はサタンの国、暗闇の国

この願いが今も変わることなくずっと続いています。復活なさった、それで御座に座っていらっしゃる勝利のキリストは、この願いのために今も働いています。教会を通して、私たち弟子を通して、クリスチャンを通してこの願いを成し遂げていらっしゃるのです。今も願いは変わりません。なぜでしょうか。今現在もこの世の中、世界は悪魔サタンが支配してるサタンの国であり、暗闇の国に何の変わりもないからです。だから、そこに神の国が臨まれることが神の願いであり、それが成就することが神の栄光なのです。

4) 人々はサタンの罠、枠、足かせに

人々は今もサタンの落とし穴に落とされているのです。自分の奴隷、お金の奴隷、世の成功の奴隷なのです。奴隷なのかも知らずに。それで、それを全うするために宗教に閉じ込められ、偶像に閉じ込められ、シャーマニズムに閉じ込められて、イデオロギーなどに閉じ込められ、その枠に閉じ込められて出られません。結果、運命の足かせにはめられて、生まれながら滅びの運命を抱えて、精神的にダメージを、肉体的に病気を患い、人間関係が壊れて家庭が破綻してしまう。人生そのものが崩れていて、むなしくなり、結局は地獄に行くしかないし、このようなろいの運命、この足かせから逃げられません。それで次世代にずっと遺産として受け継がれることになるこの運命に捕らわれているわけです。

5) 神の国のこと-聖霊のご臨在、暗闇 X、いのち

なので、神様の願いは一も二もなく一つしかありません。そのサタンの国に、暗闇の国に、運命に捕らわれている人々に、神の国のことがなされることなのです。神の国のことがなされるとどうなるのでしょうか。そこに聖霊が臨まれまして、暗闇の力が砕かれて、悪霊が逃げ去り、いのちが与えられる神の祝福が現れるのです。これが神の願いです。これを神の国のことと言います。クリスチャンのテーマは、この神の国、神の国のこと、これがテーマなのです。これが神の願いなので。これを理由にして人生を生きるだけであって、生きることが目的ではありません。もしこのような理由がなければ、私たちは天に召された方がずっと幸いだし、いつ死んでも構わない存在です。ただ生かされてる理由が、お金を稼ぐために、家庭を守るために、成功するために... そんなちっぽけな理由で今クリスチャンの私たちが生かされてるわけではありません。もしそんな理由であれば天に召されるでしょう。天国の方がずっと栄光に富んだところなので。そこに早く行けばいいのに行かないでいる理由が、お金のため、家族のため、名誉のため、成功のため... とんでもありません。神の国とその義のためなのです。ここを変えないといけません。それを弟子は確認しないといけません。

6) 衣食住は加えて与えられるもの

ならば、みながテーマにしてこだわってアップアップしているその衣食住のようなものは、加えて与えられるものなのです。それがクリスチャンです。だから、本来ちゃんとしたクリスチャンであれば、誰が見てもかっこいい人になるはずなのです。卑怯になる理由も、人と競争する理由もないし、あくせく自分の何かのためにということもありません。それがクリスチャンなのです。なぜなら自分がどれほど貴重な存在なのかわかっているし、自分が生きる理由がほかの人とそこら中の人と違うということがわかっているから。ほかの人と一緒にしないこと、それをプライドと言うのです。それを自負と言います。それを信仰生活と言います。それを祈りと言うのです。ほかの人は心配して、ほかの人は頭を回しているのに、クリスチャンはそういうことしないのです。それを祈りと言います。

まとめます。なので、今日のメッセージを聞いて、ぜひ今皆さんが心配していること、また関心を注いでいること、人生のテーマなのは何なのか、それを省みてください。それで、未信者と何がどう違うのかをぜひ吟味して確認してみましょう。それで、そこで私は心配などしなくてもいい尊い貴重な神様の子どもであることを確認して、それらのこと全部捨てて感謝しましょう。心配しないように。聖書にいちばん多く出る勧めの一つが、思い煩わないように、心配しないように。そこにはこのような理由があったということを経験しましょう。それで、自分はイエス・キリストの十字架によって新しく作り変えられたということを深く黙祷して、どこまで黙祷すればいいのでしょうか。使徒 1:7-8 が心にアーメンとして刺さるときまで。暗記ではなくて、今までこだわって気にしていて悩んでテーマに取り上げていたものが、それらはあなたがたは知らなくてもいいよということがアーメンになるときまで黙祷するように。それで祈りが変わると、必ず現場で、使徒の働き 2 章にありました五旬節の日になって、救われるべきたましいが備えられていることを必ず体験するようになります。皆さんは、十分そういう祝福に預かることができる主人公になっています。ただ、自分が誰なのかまだわかっていない。だから、テーマが変わっていない。祈りが変わっていない。と言いますのは、ずっと異邦人と同じ心配、同じこだわりな

のです。言葉を変えますと、ずっと悪魔に遊ばれているのです。だから、なかなか答えられないだけなのです。ぜひ、みことばを握って黙想することで、知らず知らず私を取り囲んでいた暗闇の力が砕かれて、光が照らされる体験の主人公になりましょう。

(祈り)

恵み深い父なる神様、キリスト・イエスの血潮によって私たちは完璧に幸いな者に、貴重な存在に作り変えられていることを感謝します。これを見ることができないように邪魔している誘い込む霊の力がキリストの御名によって縛り上げられて、ほんとうに救われた自分に驚いて、今までのこだわりと心配がすべて砕かれて、神の国とその義をテーマにして祈ることができ、その答えの祝福を味わうことができるようにひとりひとりを祝福してください。それで 237、5000 未伝道種族の前に、また日本 47 都道府県の前に立って、今も復活のキリストが聖書にある通りに働いていらっしゃることを証明して、おあかしする証人となるようにひとりひとりを祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。